令和7年度「学力向上を図るための全体計画」

関連法令等

- 日本国憲法
- 教育基本法
- ・学校教育法等の法令
- 学習指導要領
- ・東京都・練馬区の 教育目標

各教科の指導の重点

生活:見付ける、比べる、 表現するなどの多様な学習: 活動を行う。

せる。

音楽:歌や器楽で互いに聴き合うよさを味わわせる。 図画工作:造形的な特徴をとらえる能力を高める。 家庭:知識·技能などを日常生活に活用できるようにす

体育:児童自らが運動の課題の解決を目指す活動を行えるよう工夫する。

総合的な学習の時間の 指導の重点

- ・各教科、領域で学んだ知識を 関連付け、協働して課題解決 する探究的な学習を目指す。
- ・多様な学習内容や方法から自 ら学び自ら考え主体的に判断 する児童を育成する。
- ・学び方やものの考え方を身に 付け、自己の生き方を考える ことを目指す。

学校教育目標

めあてに向かって主体的・探究的に学び、新たな価値を創造する、知・徳・ 体の調和のとれた豊かな人間性をもった児童の育成を目指し、次の教育目標 を設定する。

○みんなと力を合わせる子ども ○健康で根気強い子ども

○よく考える子ども

○心の豊かな子ども

教育目標を達成するための基本方針 (確かな学力の向上)

- ①主体的・対話的で深い学びが実践できる授業づくりの推進 (キャリア教育を通して)
- ②言語能力の向上を図る質の高い言語活動の充実
- ③基礎的・基本的な内容の確実な定着に向け、個に応じたきめ細かな指導の徹底と学習 習慣の確立
- ④情報活用能力の向上を図る ICT 教育の推進
- ⑤探究心や想像力を育む読書活動の充実
- ⑥基礎的・汎用的能力を向上させるキャリア教育の推進による小中一貫教育の充実
- ⑦教職員の資質・能力の向上を図る研修及び校内研究の充実

本校における「確かな学力」

本校では、知・徳・体の3つの側面からなる「生きる力」をバランスよく身に付けることを目指し、学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。

言語能力 情報活用能力 問題解決能力

- ○基礎的・基本的な学力を確実に定着させる
- ○思考力・判断力・表現力を高める
- ○主体的に学習に取り組む態度を養う

生活指導・進路指導の重点

- ・自分とともに他人を大切にする態度の育成
- ・挨拶・返事、心で聴いて、すすんで活動
- ・「自分の身は自分で守る」健康教育・安全教育の充実

授業改善策の検証方法

- ・東京ベーシックドリル診断テスト、学力調査の結果を検討、考察する。
- ・教員の自己評価や、児童・保護者による学校評価を実施する。

児童・保護者・地域の願い

- ・楽しい学校
- ・安全安心な学校
- ・開かれた学校

道徳教育の指導の重点

- ・人権尊重の精神と生命や自然 に対する畏敬の念を育て道 徳的心情や道徳的判断力実 践の意欲や態度を身に付け させる。
- ・道徳授業地区公開講座を実施し、家庭・地域との連携を密にし、児童の実態および発達 段階に応じた指導計画を作成し、資料の整理・活用に努め、 毎時間の授業の充実を図る。

特別活動の指導の重点

- 集団活動を通して、自主性、 創造性、協調性を高める。
- ・望ましい集団活動と個性の伸長を図る。
- ・クラブや学級活動等を通して 自らの生活を向上させよう とする態度を育てる。

外国語・外国語活動の重点

・外国語活動を通じて、言語や 文化について体験的に理解 を深め、積極的にコミュニケ ーションを図ろうとする態 度を育てる。

キャリア教育の重点

- ・3つの力「自分のよいところを見つける力」「考えや気持ちを聴く・伝える力」「次のことを考える力」を身に付けられるようにする。
- ・キャリアパスポートを活用し、自 分で学びを中長期的に振り返り、 将来への展望や見通しをもつ態度 を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・ 指導方法の工夫

- ・「令和7年度改訂版大 北小スタンダード」に 基づき、学校全体で学 習規律の徹底をし、授 業を充実させる。
- ・キャリア教育の基礎的 汎用的能力を意識した 継続的な指導を行う。
- ・キャリア教育の重点(つながり、かかわり)を 意識した授業改善を図り、児童が探究的に学 ぶ力を伸ばし、自己効力感を高める。
- ・ICT や学校図書館を効果的に活用し、児童の探究心や想像力、情報活用能力を高める。
- ・主体的・対話的で深い 学びを目指す授業改善 に向けて、児童が学習 に見通しをもって取り 組めるようにする。

評価活動の工夫

- ・指導と評価の一体化を 図り、児童自身の学習 評価力を高めると共に 個々に適切な支援を 行う。
- ・児童のノートから個々 の学習状況を把握する とともに、励ましの言 葉を記すなど意欲を高 める支援を行い、学習 意欲の向上を図る。
- ・各種データを基に、児 童の変容を客観的に捉 え、指導に生かす。
- ・キャリア教育の3つの 視点、学年のキャリア 教育の目標に対して、 児童の変容について評 価を行い、指導の改善 を図る。 (授業改善推 進プラン)

校内における 研究や研修の工夫

- ・ねらいを明確にした学 習指導を推進し、基礎 的基本的な学力の定着 を図る。
- ・キャリア教育のねらい (キャリア目標3つの 視点・学年のキャリア 目標)を明確にした授 業実践を積み重ね、そ の成果を検証し、授業 改善に生かす。
- ・ICT および生成 AI を合活用した学習評価の工 夫等についての研修を 実施する。
- ・校内研究会で講師から 指導をいただき、指導 力の向上を図る。
- ・他校の研究会や各種研 究会に参加し、指導法 の改善に役立てる。

教育課程 編成上の工夫

- ・毎週学年会を行い教材 研究の時間を確保す
- ・始業前 15 分間に朝学 習を設定し、国語、算 数の基礎基本の定着を 図る。
- ・児童の学習評価に関わるアンケート、地域・保護者対象の外部評価を実施し、評価委員会で諮り教育活動の改善を行う。
- ・各種データに基づき授 業改善を図るため、 PDCA サイクルを確立 する。
- ・各学期につき、2週間 程度「算数得点アップ ウィーク」を設定し、 前学年の学習内容を復 習し、習熟を行う。

家庭や地域社会 との連携

- ・学校公開やキャリア教育を意識した道徳授業地区公開講座を実施し、保護者・地域とともに、児童の健全育成を図る。
- ・学校行事を通じて、地域から学ぶ関係をより 構築するとともに連携 を深める。
- ・「スッ判生活」などを通して、学校と家庭が共通して取り組み、生活習慣の改善や体力向上を図る。
- ・「令和7年度改訂版大 北小学習スタンダード」を 生かしながら、家庭と 連携し、ニューノーマルな学び の確立に向け、タブレ ット端末を活用した ICT教育の推進を図る。

小中一貫教育

- ・小中一貫教育を進め、 小中9年間を見通した 学習・生活スタンダー ド「めざす15歳の姿」 を共有する。
- ・課題改善カリキュラム に基づき中学までの指 導内容を見通して教材 研究を行い、当該学年 における基礎的基本的 な学力を確実に身に付 けさせる。
- ・ICT の活用を通じて、 持続可能な学習習慣の 工夫を図る。
- ・家庭学習を習慣化させ、 小中が連携して家庭学 習の定着を図る。
- ・それぞれの校種におけるキャリア教育について共通理解を図り、連携を図る。(本校開催の校区別協議会)